

かんしょの通年収穫体制構築と新商品開発の取組

総合化事業計画の認定

平成31年3月（再認定）

農業生産法人 株式会社マルシェ沖縄

<事業者の概要>

- ・所在地：沖縄県西原町
- ・代表者：代表取締役 比屋根和弘
- ・取組内容：加工品原料のかんしょの調達が不安定という課題を解決するため、年間を通じた計画生産体制（特徴）を連携農家とともに構築し、経営の拡大を図るとともに、これまでの業務用向けの商品開発に加え、家庭向けやお土産向けの新商品を開発して、直売にも取り組む。
- ・売上高：1億1,200万円（R1）
- ・雇用者数：14名（R1）（パート含む）
- ・URL：https://marcheokinawa.com/

【取り組むに至った経緯】

- 沖縄で「紅イモ」として親しまれているかんしょは、特色ある農産物として需要が多いが、収穫が秋から冬場にかけて偏るため原料調達が不安定という課題がある。
- 原料の安定調達と新商品の開発や販路を拡大することにより経営の改善を図りたいと考えた。

【活用した支援施策】

- 食料産業・6次産業化交付金
施設整備：1,075万円（R1）
- 6次産業化推進事業（連携施設整備事業）
施設整備：3,141万円（H25）

【取り組みの特徴と強み】

○バリューチェーン（付加価値・差別化）

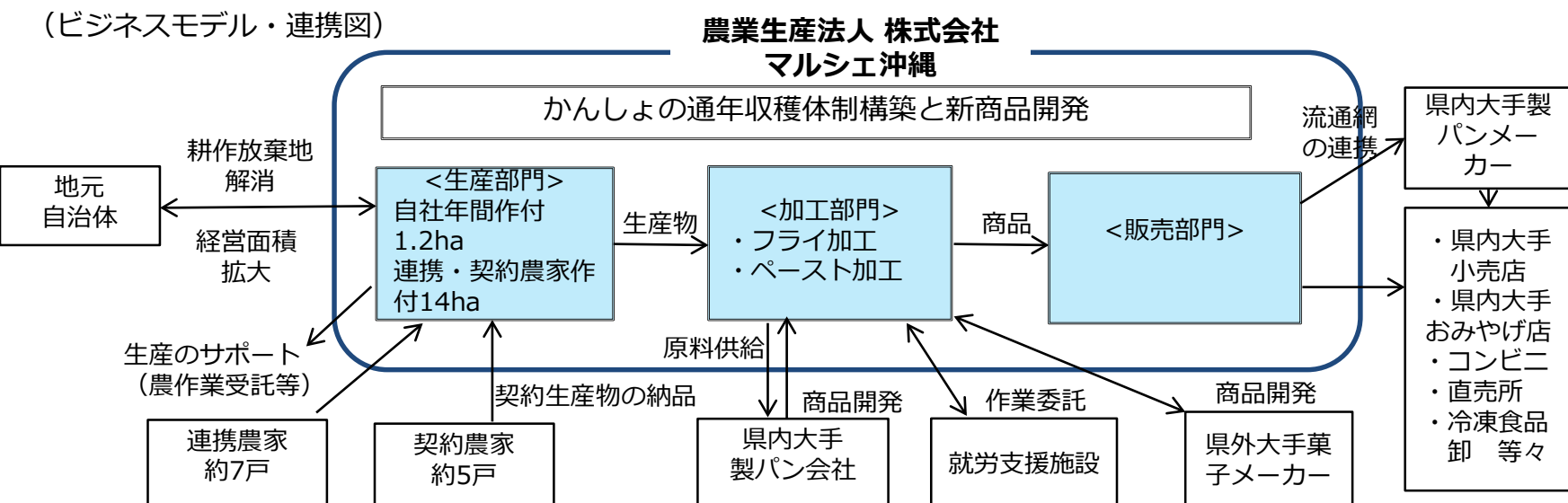
- ・加工品原材料のかんしょの生産、調達が不安定という課題を解決するため、ウイルスフリー苗の育成技術活用による苗の安定供給を図ることにより、計画的な植付け及び収穫が可能となり、年間を通じて安定的に確保できる体制を連携農家とともに構築。
- ・これまでの業務用商品に加え、これまでに有りそうで無かった家庭向け、お土産向け及び贈答向け商品を開発。

○輸出を含めた経営の多角化と高度化を図ることにより、付加価値を創出。

○イノベーション（他者との新結合）

- ・かんしょの選別や皮むき作業等を地域内の福祉作業所等の就労支援施設に委託し、農福連携に取り組んでいる。
- ・高齢化が進んでいる農家の農作業を受託することにより、連携農家の作業負担の軽減が図られている。

（ビジネスモデル・連携図）



紅イモペースト



紅イモチップス



うむくじてんぱら
※うむくじとは沖縄の方言で芋くず（かんしょのデンプン）のこと。昔ながらの伝統的なおやつとして食されています。

【成長へのターニングポイント】

○商品開発、物流の確保

- 菓子原料を供給している県内大手製パン業者と商品開発や輸送で連携。
- 県内有名おみやげ店と連携し、観光土産品や贈答品にも適した商品開発、期間限定の販売キャンペーンや店舗のHPでの商品紹介等によりお土産品としての認知度を向上させ、売上げ増加を実現。

○農福連携への取組

- 自社や連携農家の生産面積拡大により、原料となるかんしょの安定供給が可能となったが、人手の確保に苦慮していたところ、地域の福祉施設等と連携することにより、新たな労働力を確保することができた。

【経営改善に向けた取組】

○売上高向上のポイント

- ・弊社商品（うむくじてんぱら）は、成形し冷凍した上で業務向け販売を行っており、調理の手軽さや県産紅イモの味の良さが評価され、県内大型店舗の総菜コーナーで定番商品となったこと等により、売上高向上につながった。
- ・県外大手製菓メーカーとの共同開発等、市場ニーズを的確に捉えた商品開発により販路を拡大。

○経費削減の工夫

- ・農作業の機械化による人件費の節減。
- ・原料の安定供給により、年間を通して加工作業が平準化されたことで効率化を実現。

【今後の展望】

- 沖縄の紅イモは、その色と味、低カロリー食材として中国や東南アジアを中心に海外からも注目されており、市場ニーズを的確に捉えた商品開発、販路開拓を進めていく。
- 行政と連携して耕作放棄地再生による栽培面積の拡大を図る。

【取組の効果】

- 売上高
8千万円（H24（6次産業化取組前））
→1億1,200万円（R1（6次産業化取組後7年））
- 雇用者数
5名（H24）→14名（R1）
- 加工仕向け数量（かんしょ）
185t（H24）→226t（R1）